

故障と点検

※取り付け後、万一故障した際は、次の要領で分解および点検を行ってください。

現象	点検箇所
吐水量が少ない	1. 2. 7. 8. 14
水が止まらない	3
温度不良	1. 3. 7
レバーがガタつく	4. 5
カウンター内に漏水する	6. 8. 9. 11
ホースが引き出せない	10. 12

水漏れ防止パッキン
6. きちんと取り付け
あるか？

カートリッジ
3. 破損・ゴミかみはな
いか？

カートリッジ止ナット
5. 十分に締め付けてあ
るか？

本体締め付け
12. ホースが取付穴に
接触してないか？

カップリング
9. 破損・ゆるみはな
いか？

ホース
8. 破損・ねじれはな
いか？

おもり
10. きちんと取り付け
てあるか？

ホースナット
11. 十分に締め付けて
あるか？

泡沫器
2. ゴミづまりはないか？

※新品時はシールテープ、グ
リス等が付着している事が
あります。よく洗い流して
ください。
清掃方法についてはお客様
用取扱説明書をご参照くだ
さい。

スクリューセット
4. きちんと取り付け
あるか？

止水栓
1. 全開されているか？
圧力は十分か？

逆止弁
7. 破損・ゴミかみはな
いか？

グローエジャパン株式会社

本 社 〒143-0006 東京都大田区平和島6-1-1 東京流通センタービル
TEL 03-3298-9683 FAX 03-3767-3811
大阪営業所 〒550-0014 大阪市西区北堀江1-5-2 四ツ橋新興産ビル
TEL 06-6533-3015 FAX 06-6533-3460

GROHEJAPAN ホームページ
<http://www.grohe.co.jp>

※カウンター穴あけ寸法は $\phi 36 \pm 1$ で行ってください。カウンター厚 60mm 以下。

安全上の注意

据付前にこの「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく据付してください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

⚠注意

湯水を逆に配管しないでください。

※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをすることがあります。

お客様に引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。

※凍結破損で漏水し、家財を濡らす財産損害発生恐れがあります。

据付完了後は、配管接続部分及び水栓から、水漏れの無いこと、レバー、ハンドルが閉じていることを確認してください。

※漏水で、家財を濡らす財産損害発生恐れがあります。

使用条件

● 給水、給湯圧力

◇貯湯式温水器（ボイラー、電気温水器）と組み合わせる場合

流動圧で最低必要圧力（0.07Mpa [0.7kgf/C m²]）～（最高圧力 0.74Mpa [7.5kgf/C m²]）の範囲とします。

給水・給湯圧力はできるだけ同圧（最大 3 : 1 以内）になるようにしてください。

◇ガス給湯器（比例制御式：16 号相当）と組み合わせる場合

流動圧で最低必要圧力（A + 0.07Mpa [0.7kgf/C m²]）～（最高圧力 0.74Mpa [7.5kgf/C m²]）の範囲とします。給水・給湯圧力はできるだけ同圧（最大 3 : 1 以内）になるようにしてください。

※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。

※以上は下記の条件を想定して設定されて降ります。

レバー、ハンドルは全開です。

ガス給湯器との組合せ条件が最も悪い冬期条件（給水温度 5℃、吐出温度 40℃）によるものです。

給水圧力はガス給湯器直前における流動圧です。

ガス給湯器の温度調節は最高温度設定です。

◇給水圧力が 0.74Mpa [7.5kgf/C m²] を超える場合は、市販の減圧弁等で適正圧力に減圧してください。

● 水勢の調節及び器具の点検を容易にするために、別途止水栓の設置をおすすめします。

● 給湯に蒸気を使用しないでください。

● 水栓下部を点検出来るように必ず点検窓を設け、水受容器を設置してください。

据付前の注意

● 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。

● 給水は上水道に接続してください。

※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。

● 開梱、取り付けの際には商品の表面に傷をつけないように十分に注意してください。

● 必ず配管中の異物（ゴミ、砂等）を完全に洗い流してください。

● 配管接続部を隠べいしないでください。水切棚に取り付ける場合、必ず水受けを設けスラブへの防水を行ってください。

● 給水・給湯ホース緩み防止の為、給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。

● 逆止弁（接続）アダプターの接続ねじは平行ねじ G1/2 です。テーパねじ（TP1/2, R1/2）には使用しないでください。また止水には付属のパッキンは必ず使用してください。

取り付け後の確認

取り付け完了後、必ず下記の項目を確認してください。

1. 接続部の水漏れ（図 9 参照）

吐水、止水を数回くりかえした後、図の箇所を点検してください。

- 止水栓とアダプターの接続部。
- アダプターと給水・湯給管の接続部。
- 給水・湯給管と本体の接続部。
- 本体とレバーの接続部。
- カップリングとホースの接続部。
- ホースとハンドスプレーの接続部。

※特に、1) の部分は通水後漏水のない事を必ず確認し、万が一漏水が確認された場合パッキンを新品に取り替えた上、再度規定のトルクで締付を行ってください。

※ホースとハンドスプレーの接続部はハンドスプレーを引き出したまま、開閉レバーを開栓し、接続部分から水漏れが無いことを確認してください。

水漏れがあった場合、2) にゆるみが無いか確認し、再度組み立て直してください。

2. 水量・湯温の調節（図 9 参照）

お使いいただく現場で、適量・適温が得られるよう、止水栓で調節してください。

※湯水の流量を同程度にすると温度調節がしやすくなります。

3. ホース引き出しの操作確認（図 10 参照）

お使いいただく現場で、快適な操作が得られるよう、確認してください。

※ハンドスプレーを 2～3 回出し入れし、ねじれたり引っ掛かりがないことを確認してください。

4. エアレーターの清掃

32668000、33782SDJ、JP330600（図 11 参照）

- ① レバーハンドルを止水状態にしてください。
- ② 整流器（エアレーター）を専用工具を使用し、ゆるめてください。
- ③ 整流器（エアレーター）のゴミを取り除いてください。

※付属の工具（10778031）を使用して確実に締め付けてください。

3378600J、JP330700（図 12 参照）

- ① レバーハンドルを止水状態にしてください。
- ② 整流器（エアレーター）のキャップを 2.2mm スパナを使用し、ゆるめてください。
- ③ 整流器（エアレーター）のゴミを取り除いてください。

※ 2.2mm スパナを使用して確実に締め付けてください。

図 9

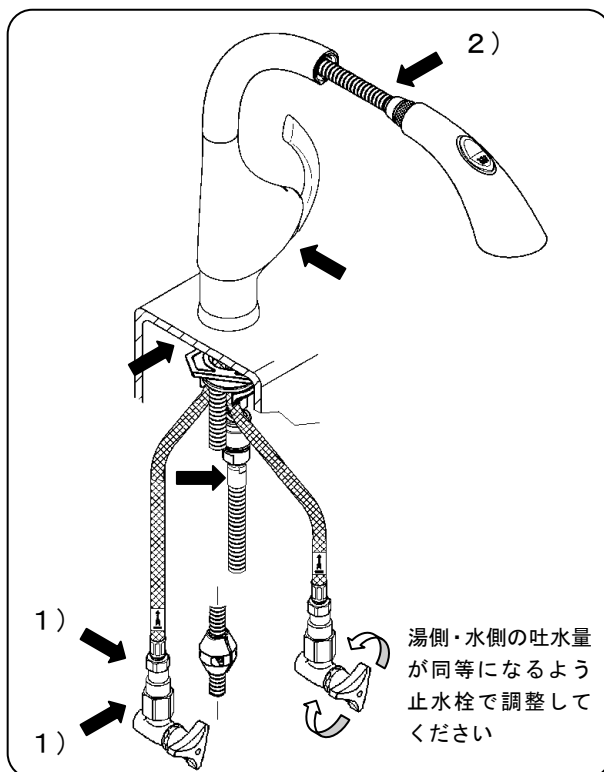


図 10

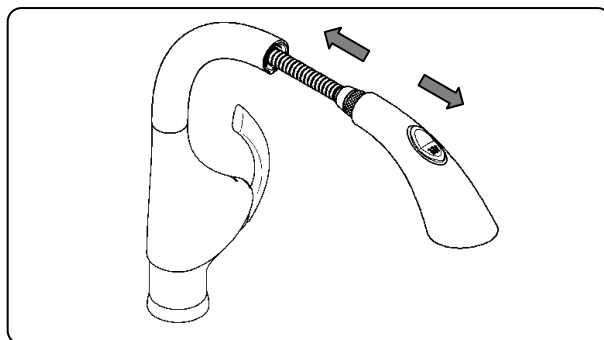


図 11

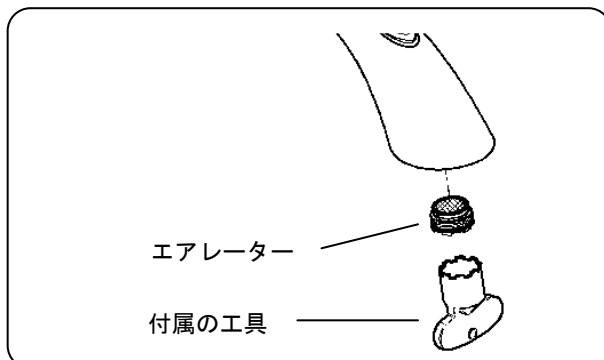
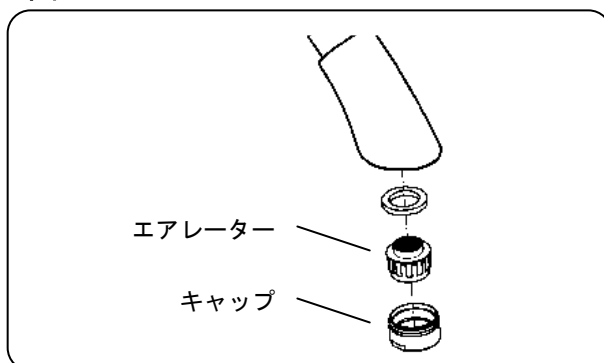


図 12



7. 給水・給湯ホースの接続（図7参照）

- ① 同梱の逆止弁を止水栓にねじ込み確実に固定してください。
※締付は、200～300kgf・cmのトルクで行ってください。
初期の締付が弱いと漏水の原因になります。
- ② 給水・給湯ホースを逆止弁に接続してください。
※給水・給湯ホースがねじれないように配管ください。
管がねじれて接続されますと、加圧した際に給水・給湯管のナットが緩み漏水の原因になります。
※給水・給湯ホースが折れないように注意してください。
ホースを曲げ半径（60mm）よりも小さく曲げて使用しますと、ホースの内部が折れることがあり、折れた部分から早期破壊を生じる可能性があります。施工時には、最小曲げ半径（60mm）よりも小さく曲げないように、ご注意ください。
※水栓本体端面から極端に給水・給湯ホースを屈曲して、施工しないでください。
※ホース同士の不要な接触は避けてください。
外部補強層の磨耗による外傷で性能の劣化の可能性があります。

図7

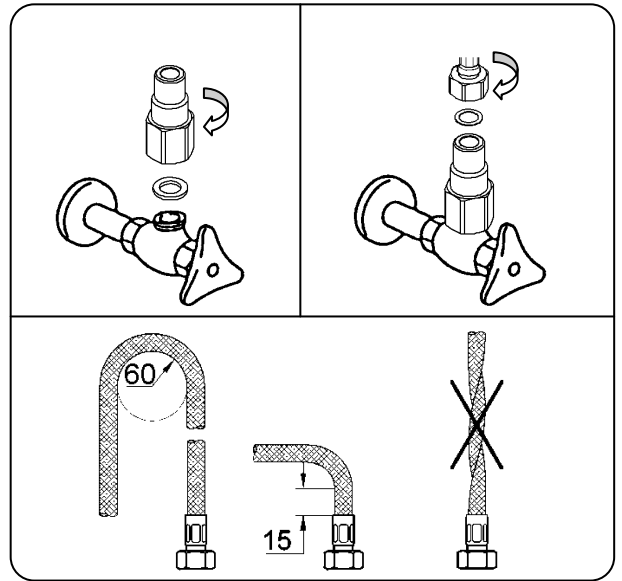


図8

8. 給水・給湯ホースの接続（図8参照）

【給水・給湯ホース接続時の注意点】

- ① レバーを右向きに取り付けますと、給水ホースは向かって手前側になります。給湯ホースは向かって奥です。
- ② レバーを正面向きに取り付けますと、給湯ホースは向かって右側になります。給水ホースは向かって左側です。

いずれの場合も給水・給湯ホース長そのままの位置（ホース長 320mm＋アダプター長 50mm＝370mm）に給湯・給水管の止水栓の立上げ位置を設定しますと、引き出しのホース操作時に引き出しのホースと給水・給湯ホースが干渉します。
干渉させないためには、図のように、給湯ホース・給水ホースにゆとりがでるよう給湯・給水接続位置（止水栓立ち上げ高さ）を調整して、接続位置をホースが前後に膨らむ、カウンターに近い位置に設置（右図、参考寸法位置）にする必要があります。

- ※ 左図の寸法は参考取り付け寸法です。取り付け箇所
の状況に応じて対応してください。
- ※ 基本的に、給湯接続位置・給水接続位置になる止水
栓の立ち上げ位置は水栓を中心とした振り分けにな
ります。止水栓の立ち上げ位置を水栓を中心に片側
に寄せた施工は出来ません。

引き出しホースの稼動空間を開ける

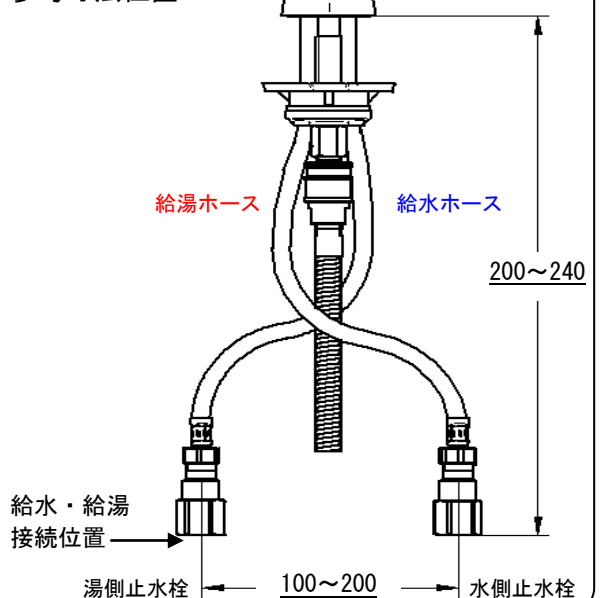
引き出しホースの
稼動空間を開ける
シャワーホースは
給水・給湯ホース
の間を通して設置
します。

給湯ホースは後ろ
側に膨らみます。

給水ホースは手前
側に膨らみます。

給湯ホース・給水ホース
は引き出しのホースに
干渉させない。

参考寸法位置

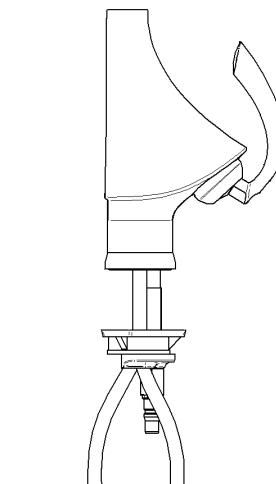


取り付け前の注意

1. レバーの位置

- K 4 は、操作レバーを右側もしくは正面に向けるように方向を選択して取り付けることができます。
 - 本水栓の構造上、いずれの場合も、給湯ホース・給水ホースの本体からの取り出し位置がホースの赤青の表示に対して、通常の接続方向（左側：湯、右側：水）と異なります。
- 給湯ホース・給水ホースはホースの赤青の表示を確認の上、左：湯、右：水で接続します。
- これにともない、本水栓の取り付けに際しては施工時に注意が必要となりますので、下記の「取付方法の注意点」を考慮して、設計、取り付けを行ってください。

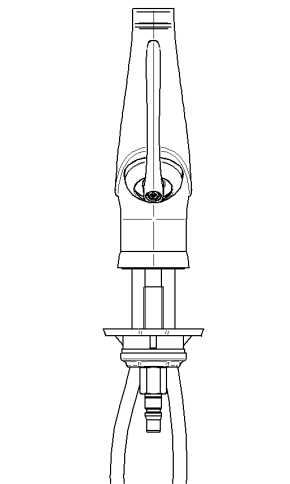
レバーを右側にした場合



給湯ホース 給水ホース

給湯管・給水管は通常接続位置から 90 度回転した位置になります。

レバーを正面にした場合



給水ホース 給湯ホース

給湯管・給水管は通常接続位置と逆向きになります。

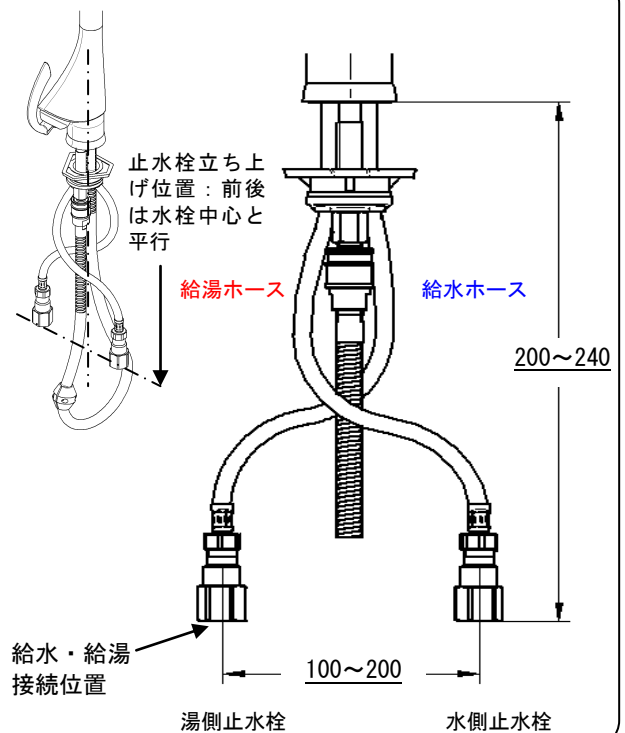
2. 取付方法の注意点

- 給湯・給水の止水栓の立ち上げ位置（給湯・給水接続位置）は、カウンターの上から 200~240mm の高さにしてください。
 - 給湯・給水の止水栓の左右間隔は水栓を中心とし、ピッチ 100~200mm となるようにしてください。
- また前後に関しては水栓の中心と平行になるようにしてください。

※給湯・給水の止水栓の立ち上げ位置を 50mm 開くとカウンターからのホース長が約 10mm 短くなります。カウンターからの立ち上げ高さを 10mm 短くしてください。

逆に閉じると約 10mm 長くなります。カウンターからの立ち上げ高さを 10mm 長くしてください。

※寸法は参考取り付け寸法です。取り付け箇所の状況に応じて対応してください。



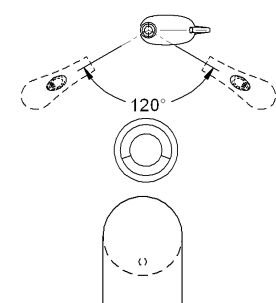
3. パイプホルダーの回転角度

- JP 3 3 0 6 0 0、JP 3 3 0 7 0 0 はパイプホルダーの回転を 120° 回転もしくは 360° 回転の選択が可能です。

※ 3 2 6 6 8 0 0 0、3 3 7 8 2 S D J、3 3 7 8 6 0 0 J は回転角度の選択できません。360° 回転になります。

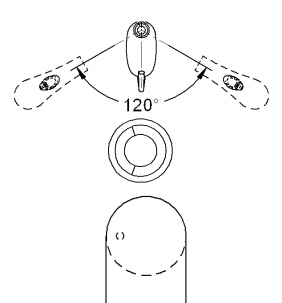
レバーを右側

120° 回転の場合



レバーを正面

120° 回転の場合



据付手順

1. 本体の準備 (図1 参照)

- ① 本体付属部品を収納している小袋から、水漏れ防止用パッキンを取り出し、本体に取り付けてください。
- ② 本体をカウンター上部から取付穴に挿入してください。給水・給湯管の袋ナットを同時に取付穴へ差し込むとすると袋ナットがぶつかり入りませんので、給湯管を差し込んだあと給水管、取付用ボルトの順で挿入してください。
- ③ 開閉レバーを右側または正面と本体の設置方向を変えて取り付けることが可能です。
※水漏れ防止用パッキンが取り付け穴に落ち込んでいないことを確認してください。又、取付穴が本体の中心にくるように挿入してください。
※給水・給湯管、ホースがつぶれないよう注意してください。

2. 本体の固定 (図2 参照)

- ① 本体の穴にホースを仮に挿入して、ホースの空間を確保してください。
- ② 取り付け方向を決めて、本体をカウンターにセットし、カウンターうらから三角固定板、ゴム製平パッキン、馬蹄形ワッシャーを挿入し、締付ナットを工具（17mmスパナ等）で締め付けてください。
- ③ 本体を固定する際、本体が取付穴の中心にくるように取り付けてください。又、取付穴に給水・給湯管、ホースが接触していないことを確認してください。
※三角固定板、ゴム製平パッキン、馬蹄形ワッシャーがきちんと重なっていること。又、水漏れ防止用パッキンが取り付け穴に落ち込んでいないことを確認してください。
※本体が確実に固定されていることを確認してください。再度締め付けても動く場合は、ゴム製平パッキンは使用しないで締め付けてみてください。
※取付穴が大きい場合（ $\phi 38 \sim \phi 45$ ）には別売のスポンジパッキンを使用してください。
※固定には別売（市販品）のソケットレンチ等を使用して確実に締め付けてください。
※取り付け穴に引き出しホースが接触する場合は、本体を少しレバー側にずらしてください。

3. 本体とホースの接続 (図3 参照)

- ① パイプホルダーのスプレーガイド側の穴にホースのネジ部側を挿入します。
- ② 本体の穴にホースを入れて、パイプホルダーのニップルを本体差し込みます。
- ③ ホースを13mmスパナで固定し、ホースにカップリングを19mmスパナでねじ込んでください。
- ④ 本体取付用ボルトのニップルにカップリングのスリーブを手で下げながら差し込んでください。
※カップリング、ホースの締め付けは必ず二面幅（工具使用面）を利用してください。無理に締め付けますとキズが入り、家財を濡らす財産損害発生のおそれがあります。
※カップリングを差し込む際は、ホースのねじれ、よじれを直し、自然な状態にしてから差し込んでください。
※カップリングは『カチッ』と音がしてロックするまで差し込んでください。
※パイプホルダーが差し込みにくい場合は、オリングにグリスを塗ってください。

図1

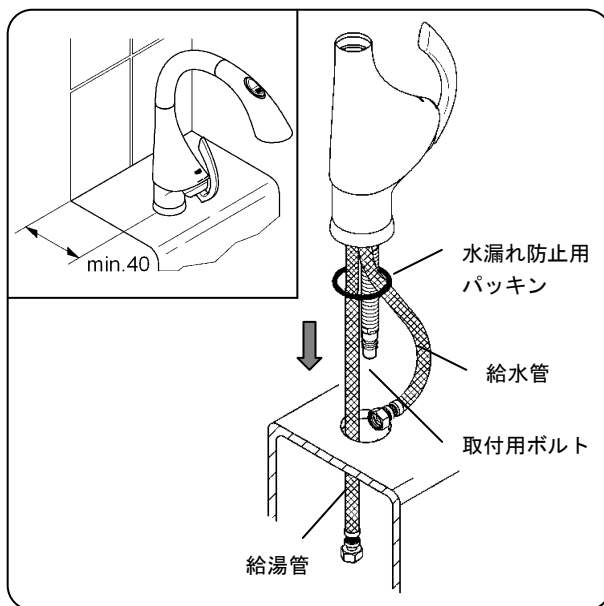


図2

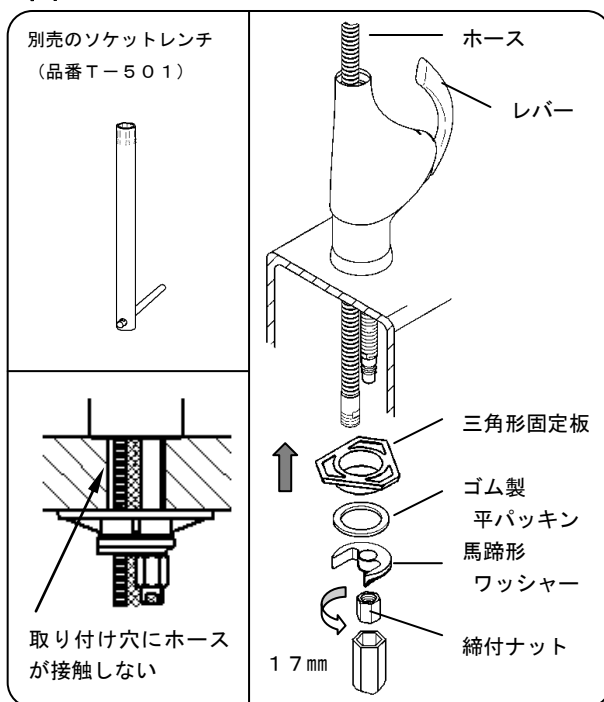
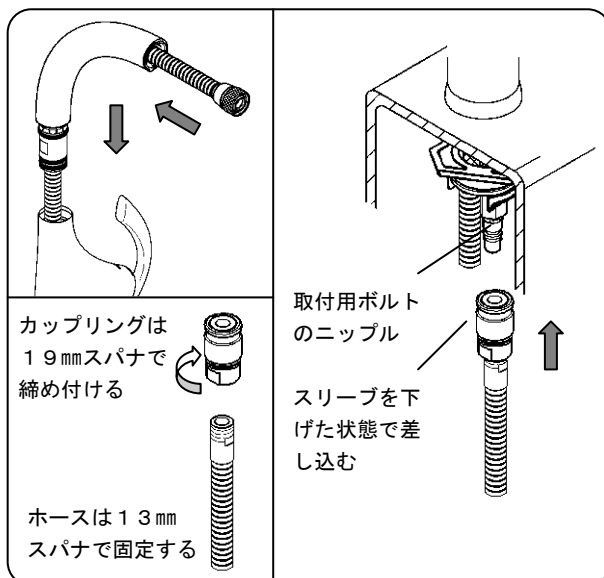


図3

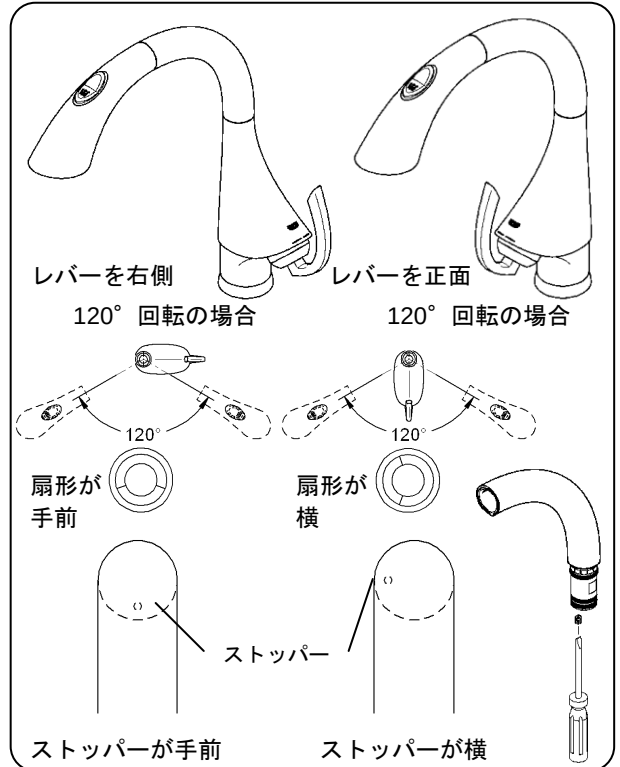


4. パイプホルダーの回転角度（図4参照）

JP330600、JP330700はパイプホルダーの回転角度を選択できます。

- ①レバーを右側に取り付けるか、正面に取り付けるか選択してください。
 - ②レバーを右側にする場合は、そのままパイプホルダーのニップルを本体差し込みます。
 - ③レバーを正面にする場合は、パイプホルダーのストッパーを手前から横に、組み換えてください。
 - ④360°回転にしたい場合は、ストッパーを取り外してください。
- ※ストッパーに当たり、それ以上無理に回転しますと、器具を損傷させる場合があります。

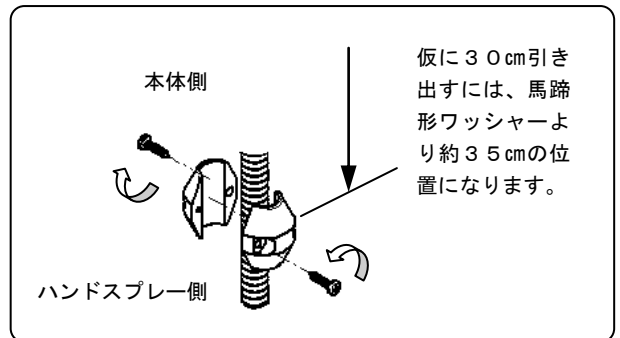
図4



5. おもりの取り付け（図5参照）

- ①おもりは、ハンドスプレーの納まりをよくするためと、引き出したときのストッパーの役目をします。
 - ②ホースにおもりをはさみ、両側よりビスでねじ込み固定してください。
 - ③ホースの引き出し寸法は、お使いのチッキンシンクに合わせて調整してください。
- ※ハンドスプレーをいっぱい引き出した状態で、ホースにゆとりがないときはおもりの位置をずらしてください。

図5



6. ハンドスプレーの取り付け（図6参照）

- ①32668000、33782SDJ、JP330600は、同梱の梱包箱からハンドスプレーを取り出してください。
 - ②ホース先端のリングがハンドスプレーにきちんと入るまで差し込んでください。
 - ③ホースナットを手で右に回し、完全に止まるまで締め付けてください。
 - ④ホースナットがホースの根元に最後まで入っていること。ホースがホース根元で遊びが無く完全に固定されていること。ハンドスプレーを引き出したまま、開閉レバーを開栓し、接続部分から水漏れが無いことを確認してください。
- ※水漏れがあった場合、1)、2)にゆるみが無いか確認し、再度上記の通り組み立ててください。
- ※ホースナットはハンドスプレーにしっかり確実に締め付けてください。接続部から水が漏れて、キャビネット内を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

図6

